

霞宝館だより

題字・畚野光義師

霊宝館だより 第151号

令和7年7月1日発行

和歌山県伊都郡高野町高野山306

公益財団法人高野山文化財保存会

高野山霊宝館

電話0736-56-2029

URL <https://www.reihokan.or.jp>



石楠花図(部分) 霊宝館蔵

日本の水彩画家、丸山晩霞(一八六七〜一九四二)作。ヨーロッパ、アメリカ、中国、東南アジア、インドなどを巡遊し、世界各地から持ち帰った石楠花を育てるなど、高山植物に関して博学であった。日本山岳画協会を創設。本作品は、そのような石楠花をモチーフにしたもので、昭和四年に霊宝館へ寄贈された。

利用案内

■開館時間 9時00分〜17時00分

■休館日 年末年始

(展示替えに伴う臨時休館あり)

■拝観料 大人 1300円

高・大学生 800円

小・中学生 600円

■専用駐車場あり

高野町に住居票がある方、高野町内の学校に在籍する学生の方は入館無料です。(住所記載の証明書提示要)

第45回大宝蔵展

「高野山の名宝」

～仏さまと草木花～

7月5日(土) ~ 10月5日(日)

第151号 目次

大宝蔵展のご案内……………2〜3

収蔵品の紹介120……………4

高野山の生き物 第八回……………5

特集高野山……………6〜7

高野山霊宝館からのお知らせ……………8

毎月21日(弘法大師の日) ご来館の方にプレゼントを差し上げます。

第45回大宝蔵展

「高野山の名宝」 仏さまと草木花

令和7年7月5日(土)～10月5日(日)

前期 7月5日(土)～8月17日(日)

後期 8月19日(火)～10月5日(日)

会期中無休

仏教の教えでは、人間をはじめ、動物や植物など、命あるすべてのものには仏になる素質が宿っているとされています。

私たちの日常で何気なく目にしている草木花（草木や花、季節感を含めた植物全体）は、仏さまやお墓へのお供えとして用いられるだけでなく、高野山では、「五段華」と呼ばれる五段に重ねた荘厳な花々が宗教行事で供えられるなど、仏教と深い結びつきを持っています。

今回の大宝蔵展では、唐草、沙羅双樹、蓮華などの草木花があらわれた仏像や仏画を中心に、貴重な文化財の数々を展示いたします。ぜひご覧ください。

主な展示品

彫刻

重文 釈迦如来及諸尊像

普門院

不動明王坐像並びに二童子像の内制多伽童子像 金剛峯寺
釈迦・薬師・観音像 金剛峯寺



不動明王坐像並びに二童子像の内制多伽童子像 金剛峯寺



重文 釈迦如来及諸尊像 普門院



重文 鶏図（春・夏） 宝亀院



県指定 菊花牡丹文透彫箱 金剛峯寺



重文 紙胎花蝶蒔絵念珠箱 金剛峯寺
【7月26日(土)~8月17日(日)】



重文 紅顔梨色阿弥陀像 桜池院



重文 蓮華形柄香炉 龍光院



打敷 薔薇刺繍文様(部分) 金剛峯寺



重文 後小松天皇宸翰秘調伝授書 西南院

次回展覧会

令和7年度 秋期企画展

「奥之院」弘法大師信仰の始まりと広がり」

令和7年10月11日(土) ~ 令和8年1月12日(月・祝)

■ 絵画

- 国宝 仏涅槃図 金剛峯寺【前期】
- 重文 鶏図(春・夏) 宝亀院【後期】
- 重文 紅顔梨色阿弥陀像 桜池院
- 重文 文殊菩薩像 宝寿院
- 重文 高野大師行状図画 地藏院
- 重文 十卷抄 円通寺
- 重文 稚児大師像 正智院
- 入定弘法大師像 金剛峯寺
- 石楠花図 霊宝館
- 花鳥図 正智院

■ 書跡

- 国宝 紺紙金銀字一切経(中尊寺経) 金剛峯寺
- 重文 法華一品経 金剛峯寺
- 重文 後小松天皇宸翰秘調伝授書 西南院
- 秘記 三鈷松 宝寿院

■ 工芸

- 重文 紙胎花蝶蒔絵念珠箱 金剛峯寺
- 重文 蓮華形柄香炉 龍光院
- 重文 花鳥文磬 清浄心院
- 県指定 菊花牡丹文透彫箱 金剛峯寺
- 打敷(薔薇刺繍文様) 金剛峯寺

【7月26日(土)~8月17日(日)】

※文化財の保存上、展示品が変わる場合があります。
※期間中、一部展示替を行います。

収蔵品の紹介 120

国宝 仏涅槃図

絹本着色 応徳三年(一〇八六) 金剛峯寺蔵



図一 仏涅槃図



図二 仏涅槃図 (沙羅双樹部分 拡大)

仏涅槃図は、お釈迦さま(ブツカ)が涅槃(ねはん)、つまり生死の輪廻(りんね)から解脱(げだつ)し、永遠の安らぎを得られた入滅(にりめつ)の情景を絵画化したものです。古来、日本では、各寺院で毎年二月十四日から二月十五日にかけて行われる「涅槃会(ねはんかい)」という、お釈迦さまが入滅された日を多くの方が偲(しの)ぶ行事で祀(まつ)られます。

本図は『大般涅槃経(だいぱんねはんきやう)』や『大般涅槃経後分(だいぱんねはんきやうごぶん)』等の主な経典をもとにしたもので、応徳三年(一〇八六)に制作された涅槃図であることが

ら、「応徳涅槃図」とも呼ばれ、日本に現存する最古の涅槃図です。本図は、煌びやかな寝台の上で、横になっただけのお釈迦さまを中央に配し、その周囲にお釈迦さまの弟子たちをはじめ、仏さまや神々、動物の獅子までもが涙を流し嘆(なげ)き悲しむ様子が描かれ、さらには木々がしおれたり、花が散つたりすることで、悲しみを象徴的に描いています。これらから、生

きとし生きるものすべてがお釈迦さまを慕い敬(うやまつ)っていることや、お釈迦さまの教えがいかに多くの存在に影響を与えていたかを表していると考えられます。

今回の「仏さまと草木花」と題した大宝蔵展では、植物に注目した内容となっています。図一の中央に、お釈迦さまを囲うように沙羅(さらか)双樹(じゆうじゆ)という木が描かれています。沙羅双樹とは、お釈迦さまが入滅した際に現れたとされる木であり、仏教の三

大聖木のひとつとされています。

また、本図に描かれる八本の沙羅双樹のうち、図二の赤い印を付けた沙羅双樹は枯れて、花の色が白く描かれ、お釈迦さまの入滅に際し、木でさえも悲しみを感(あは)じて、花自体が枯れてしまったことを表現しているといわれています。また、図二で青い印を付けた植物は、青々と茂(しげ)った緑色の花が描かれ、お釈迦さまの教えが色あせることのない「永遠の真理」であることを象徴しているといわれています。

この二つの状態を一緒に描くことで、これほど深く悲しまれる寂滅(じやくめつ)の境地(けいち)は如何なる者であっても避けられない一方、お釈迦さまの教え(＝真理)は滅(めつ)することなく永遠であることを表現していると考えられます。

今回の展覧会では、草木や花などの植物をテーマに、仏教に関する文化財を展示いたします。この展覧会やご紹介する文化財を通じて、日常生活で普段なげなく目にしている植物が、仏教美術においてどのような意図で用いられているのかを知っていただき、皆さまに草木や花の描かれた文化財に、興味を持っていただけましたら幸いです。

(和多 智恵光)

特定外来生物 アライグマ・ハクビシン・ソウシチヨウ

高野山寺領森林組合 西田 安則

五月、高野山は新緑の季節です。夏鳥達もほとんど到着し早いものでは子育てを行っています。野山を歩くには一番楽しい季節です。いろいろな鳥が盛んに囀っています。その中で、あまり抑揚がないが口笛に似た綺麗な囀りをする鳥がいます。それがソウシチヨウです。ソウシチヨウはの本来の生息地は、インド北部、中国、東南アジアの内陸部です。江

戸時代から愛玩用として飼われていましたが、平成に入り標高一〇〇〇mくらいの山地で繁殖しているのが見つかりました。高野山でも、笹等の藪があるところでは普通に見ることができます。その傾向は全国的なもので、平成十七年に特定外来生物に指定されました。

または意図せずに人為的に海外から持ち込まれた生物のことを言います。それらの生き物の中には生態系、人命、身体、農林水産業に被害を及ぼす生き物がいます。その中で著しく被害を及ぼすか、その可能性のある生き物を指定しています。それが特定外来生物です。また、海外からでなく国内においても人為的に本来いないところに移入された生き物のことを外来種といつて

の森をハイキングする「WAKUD OKIフォレストハイク」を行っています。昨年夏あることに気づきました。「カエル、ヘビ、サワガニが居ない！」そして遂に川沿いを歩く二頭のアライグマを目撃。それまでも、箱罠に入ったアライグマは何度も見ましたが、森の中で見たのは初めてでした。その後何度も目撃するようになりました。他にもジャコウネコ科のハクビシンがいます。筆者は、森の中では見たことはありませんが箱罠の捕獲状況から考えるとアライグマより多いと思われる

区別されているみたいですが。国内移入種とも言われます。

さて、高野山ではソウシチヨウだけでなく、もつと在来種に脅威となっている外来種がいます。それが、アライグマとハクビシンです。当組合（高野山寺領森林組合）では夜

このように聖地高野山においても外来生物が増え、自然界のバランスが崩れてしまっています。このような状況にしまったのは、人間の身勝手な行動にほかならないと思います。



ハクビシン (トレイルカメラによる撮影)



アライグマ (トレイルカメラによる撮影)



ソウシチヨウ (写真提供：林 育造氏)

特集高野山

金剛峯寺 大玄関 欄間彫刻について考察

高野山霊宝館館長 大森 照龍

高野山は弘法大師空海の構想によつて開創されます。そのおり大師は「高野山は東西に龍が臥して、南北に虎が蹲踞（うづくまる）」と景観を述べています。この「龍と虎」

の例えは栃木日光（栃木県日光市）を開山した勝道上人にも贈られています。なぜ大師は二獣を二回も使用なされているか私は不思議でした。ですが先の高野山学で「女人堂」

を紹介したおり「五来重先生」の説として、一心院辺りが伽藍を中心とし西北の方角が墓地に向いていると紹介しました。それは中国思想の方

位学の理解でした。それを推し進めると高野山の地形は北に墓地に最良な山を抱え、（玄武・カメ・黒）東に（青龍・リュウ・青）河川である御殿川・玉川。南に（朱雀・トリ・赤）池・湖の場所が蓮池。西に（白虎・



図1 大玄関 東 麒麟・キリン



図2 大玄関 東 鳳凰・ホウオウ



図3 大玄関 西 霊亀・カメ

トラ・白)、街道。高野街道・高野町石道にあたると思います。多分資料はありませんが、大師開創構想にも四神思想を考慮し「龍と虎」のたとえを用いたとも思えます。

近年ではキトラ古墳にも四神像の発見。また京都平安京は四神に守護された土地とされています。このような中国思想方位学で考えると私は高野山も四神相応の地と常々考えていました。

さてこのようなことを着想していたところ、今回「高野山学」講演にあたり、金剛峯寺を調査し、大玄関欄間に興味深い彫刻があり、紹介し



図4 大玄関 西 応龍・リュウ



図5 大玄関 南東 親子寅3神・トラ



図6 大玄関 南西 寅2神・トラ

ます。玄関東側奥より麒麟・キリン。鳳凰・トリ。西側には奥より霊亀・カメ、応龍・リュウ。南面には東に親子虎三神・トラ。西に虎二神が配置されています。先に述べた「四神」は北に玄武・東に青龍・南に朱雀・西に白虎を配し東西南北を守護するとされています。同一視されることもありますが、玄関に彫刻されている神獣は「四霊」として区別される。麒麟・鳳凰・霊亀・応龍の四獣です。ただしこれらの神獣は方位神ではありませんが、先の四神またこの四霊は「四聖獣」・「瑞獣」とも呼ばれ、人々に幸福をもたらすと言われま

す。このように金剛峯寺大玄関に瑞獣と呼ばれる獣を配し、訪れる人々を如何に「多幸・福寿増長」を願うたうえでの制作であることが窺え、それは現代風のパワースポットの空間でもあります。正面の虎(子虎含む)五神と屋根妻部分にある龍の彫刻は、大師の高野山景観にあった「龍と虎」をより強調された形で作られたのでしょうか。なお、東会下門にある兎の彫刻は兎の多産を象徴し、くぐる人々に「子孫長久」へと誘う願いがあつたと考えられます。

四神・四霊ともに大師の高野山開創構想の中に含まれていたのか、確たる資料はありません。しかし、何時の頃からか高野山はこのような瑞獣等の加護もあり、一二〇〇年の長きにわたり、人々の心の拠り所、霊峰として大師の教えが受け継がれる場所となりました。

四神 方位 地勢 季節
 青龍 東 川・流水 春
 朱雀 南 沢・湖沼 夏
 白虎 西 道・大道 秋
 玄武 北 山・丘陵 冬

*時に中央に黄龍・麒麟を加えて五神とすることあり。

四霊 麒麟・鳳凰・霊亀・応龍

高野山霊宝館からのお知らせ

◎ミュージアム法話(予定)

「ミュージアム法話」(お坊さんによる法話と展示解説)を、左記の日程に実施しました。

5月17日(土) 講師 中谷昌善師
6月7日(土) 講師 吉武隆善師



ミュージアム法話開催風景
(高野山本山山布教師 中谷昌善師)

今後の開催予定

7月12日(土)、8月2日(土)、
9月6日(土)、10月18日(土)、
11月8日(土)

いずれも13時より開催(約45分)
※参加費無料ですが、拝観料が必要となります。

◎重要文化財指定記念特別展「大伽藍」関連事業

○ミュージアムトーク
4月12日(土)と6月14日(土)の両日、「ミュージアムトーク」(当館職員による展示解説)を実施しました。

◎展覧会予定

○秋期企画展
「奥之院
弘法大師信仰の始まりと広がり」
10月11日(土)～
令和8年1月12日(月)・祝



ミュージアムトーク開催風景(4月12日)

○冬期平常展

「密教の美術
〜しあわせのカウンタ〜」
令和8年1月17日(土)～4月12日(日)

◎霊宝館オリジナル新商品発売

高野山霊宝館ミュージアムショップではオリジナル新商品『切り絵 両界曼荼羅』の販売を開始しました。

繊細な切り絵を、グラデーショョンが施された台紙に添えてお渡しいたします。価格は1枚3,000円。



◎Instagramを開始

このたび、高野山霊宝館のInstagramを始めました。霊宝館の内側や周辺情報などを主にリアル動画(短い動画)で発信しています。よろしければ、ぜひご覧いただき、フォローしてください。ただけると幸いです。(アカウント:koyasan_reihokan)



◎記事の訂正

令和7年4月1日発行の霊宝館だより150号の1頁 表紙写真のキャプションに「重要文化財 金剛峯寺 孔雀堂・准胝堂・御影堂・根本大塔(手前・西から)」とありますが、孔雀堂は重要文化財指定の対象外です。

◎密教・仏教が自宅で学べる『高野山大学 社会人向けコース』



高野山大学コース広告

高野山大学では、社会人の皆様の人生のさらなる学びを応援するオンラインで受講可能な密教文化コースを開設しております。空海、マンダラ、お遍路、歴史など幅広い学びを、続けやすい学費にてご案内しております。詳細は大学HPをご確認ください。



大学 HP QRコード

友の会 会員募集

〈年会費〉

一般会員(個人) 3,000円
賛助会員(法人) 30,000円

キャッシュレス決済手続きが可能となります。入会希望の方は下記から申し込みいただくか、霊宝館までお問い合わせください。

会費ペイ会員登録用URL・QRコード
https://www.kaihipay.jp/forms?form_code=9807367488232707

